



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成21年(2009年)3月23日 第36号

## 「ゆっくり歩こう萩がこぼれる。」

この季節に萩の話題は、少しピント外れの気がします。卒業式のこの季節、先生たちや子どもたちのことを考えると、別れの寂しさと、旅立ちのうれしさを感じていらっしゃるのだなと思いつつ、ふと思いで出していました。

この言葉は、昔、国語の先生をしていた友人から、よく聞いていたフレーズです。

よく聞いたといっても私の記憶の中では、いつどんなときにこのフレーズを聞いたのかははっきりとしないのです。しかも、いつも思い出すのは、友人と家出をした子どもを探しに行った日の帰り、車の中とそのあとに寄ったお店で話をしている情景です。

その日は、結局、子どもは見つからず、いわゆる空振りの日でした。

車の中では、何か二人で議論に熱中していましたが、どんな話をしていたかまったく覚えていません。たぶんその子どもについての話をしていたのでしょう。

お店の中では、二人で何かお肉のメニューを食べていたと思います。食べながらもお互いに熱心に話をしていました。ひとしきり話がつき、どちらからともなく、

「今日は、疲れた。」

「疲れたときは、肉料理がええな。」

「また、明日。お疲れさん。」

最後はこんな会話だったように思います。このやりとりをきっかけに二人それぞれ帰宅していきました。

たった、こんな映像の記憶だけが、このフレーズとともに思い出されてきます。

その友人とは、ほんとはよく議論し、よく語り、よく遊びました。

子どもについての進路・生活、子どもを取り巻く家庭や地域のこと、とにかくいろんなことをしゃべっていました。忙しい毎日でしたが、一つひとつ、一人ひとりを丁寧に見ていた気がします。

冒頭のフレーズはご存じの方もいらっしゃると思うのですが、種田山頭火の詠んだ俳句です。種田山頭火は、自由律俳句の俳人として有名です。また、漂泊の俳人としても知られており、托鉢をしながら旅をしていました。昭和5年秋、山頭火は、熊本から日向路入りをしている時の日記に「今日の道は山路だからよかった。萩がうれしかった。自動車よ、あまり走るな、萩がこぼれます」と書いています。この時、この句を詠んだと記録に残っています。

このような、この句の背景は、最近知ったものです。

忙しくしていると、ふと、「ゆっくり歩こう萩がこぼれる。」の言葉と先ほどの情景が浮かんできます。

その言葉は、時として、萩の花がこぼれ落ちてしまわないように、ゆっくりと周りを愛でながら、歩んでいくことも大切だと教えてくれているのかなと思います。

今年の1月は、その友人の十三回忌でした。(十河)



# 支援のユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」とあります。例えば、シャンプーのボトルに凸部をつけることでリンスと区別できる仕掛けがあります。視覚に困難がある人はもちろんのこと洗髪中には、だれにも便利なちょっとした工夫です。

支援のユニバーサルデザインとは、配慮が必要な子どもには「ないと困る」支援であり、かつ、どの子どもにも「あると便利」な支援のことです。どの子どもにも過ごしやすい教室、わかりやすい授業にするためには、ユニバーサルデザインの視点を加えた指導の工夫や留意、心構えを準備することが必要です。

2月26日（木）府教育委員会において「発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業全体研修」が開催され、植草学園短期大学 佐藤 慎二先生による「気になる子ども・発達障害の子どもの理解と学級・授業での具体的な支援のあり方」の講演がありました。豊中からもコーディネーターとしての役割を担っておられる先生方を中心に多く先生方が参加されました。支援のユニバーサル化へのヒントがもりだくさんでしたので、佐藤先生の提案されたことをいくつかご紹介します。

## 授業づくりに関って

- 教科書・ノート準備のタイミングやそのやり方を明示する
- 授業の流れを示す
  - ・先の見えない不安を解消する
  - ・カードを用意する
- 授業の型を一定にする
  - ・同一教科の流れをできるだけ一定にする
  - ・授業をユニット化する
- 言葉の表現を適切に
  - ・抽象語を少なく具体的に
  - ・否定ではなく肯定的な表現で
- 授業の進め方を工夫する
  - ・称賛的であること
  - ・適度な選択の幅があること
  - ・一時一作業
- 指示や説明を簡潔にする
  - ・一文一動詞（動作）で話す
- 間違いや失敗を受け止める言葉を！

## 学級の生活では

- 学級の理念として
  - ・どの子どものよさも、頑張りも支える
  - ・どの子どもの苦手も、不得意も支える
- 生活のルールを明確にする
  - ・基本的なソーシャルスキルを学ぶ
- 整理・整頓・整然・清掃・清潔を大切に！
  - ・教室環境を整える
  - ・教室正面を簡素にする
- 視覚情報を活用する
- スケジュールと活動の終点を明確にする
- 静かな時間を確保する
- 席の位置の最適化と姿勢（いすや机の高さ）に目を向ける
- 頭ごなしの注意・叱責はさける
- 称賛・承認を大切にする



# 当事者から学ぶ 自閉っ子、こういう風にできてます!

eひろば第33号でご紹介した翻訳家のニキ・リンコさん。教育センター養護教育系の念願叶って、教育センターにお越しいただき、「自閉っ子、こういう風にできてます!」というテーマで約2時間ご講演いただきました。100名を越える先生方の参加があり会場は満席でした。ありがとうございました。

## 参加者の感想から

先日の講演、大変興味深く聴かせていただきました。普段、子どもたちと触れ合っている中で、何気なく「私の感覚」を基準として、指示を出したり、子どもたちの話を聴いたりしていたことが、ゆゑに多ゆゑを認識させられました。

例えば、「2つ以上のことを同時に考えることができない」とのお話では、子どもたちの理解を待たずに指示をしたり、話をすすめていたりしている自分の多くの経験を思い出すことになりました。「自分のペース」のおしつけになっていた場面が多々あり、これからは、子どもたちの様子をよく見て話しかけるタイミングを考え、内容もひとつずつにするように心がけようと思っています。—中略—

改めてニキ・リンコさんのお話の視点で見ることで、自分の世界観も変わった気がしています。みんなそれぞれ感覚は違っているんだという視点を大切に今後の仕事に役立てていきたいと考えています。

当事者の方のお話は聴いたことがなかったので、とても興味深かったです。「おなかがすく、痛い」などは分かりにくく、周りの大人からの学習だというのは驚きました。とても勉強になりました。

とてもストレートで分かりやすかったです。サングラスをかけられている理由も自らの気を散るのを防ぐということで、なるほどと思いました。アスペルガーということで、身近なお話がとてもよかったです。

衝撃的でした!

考えも及ばないような感覚で過ごして来られたということを知りやすく伝えて下さいました。今後、似たような方々と接する機会があれば大変参考になり、また、いい方向に活かしていけると思っています。

## 発達障害関連で参考になるHP

■「ええやん ちがっても」はたいへんわかりやすく、すぐに参考にできるので是非活用ください。

[http://kokoro-osaka.jp/dl/pdd/pdd\\_dl.html](http://kokoro-osaka.jp/dl/pdd/pdd_dl.html)

■発達障害教育情報センター ネット上での研修講義は短時間でよくわかります。

<http://icedd.nise.go.jp/blog/>

■発達障害情報センター

<http://www.rehab.go.jp/ddis/index.html>

■軽度発達障害フォーラム

<http://www.mdd-forum.net/>

■今日から使えるなら特別支援教育ガイド

<http://www.nara-c.ed.jp/syokyo/html/index.html>

■文部科学省

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/main.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main.htm)

■独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

<http://www.nise.go.jp/>

■コミュニケーション支援ボード（明治安田こころの健康財団）

<http://www.my-kokoro.jp/communication/index.shtml>

■横浜市 健康福祉局／ご存知ですか? 「コミュニケーションボード」→コミュニケーションカードも有効

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/shogai/kankoubutu/board/kyukyu.html>

■和歌山県 HP（福祉保健部福祉保健政策局障害福祉課）／ご存じですか。「コミュニケーションボード」

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/c-board/c-board.html>

■神戸市保健福祉局 HP／こども家庭センター 発達障害ネットワーク推進室

[http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/b/hattatsu\\_shougai/index.html](http://www.city.kobe.jp/cityoffice/18/menu03/b/hattatsu_shougai/index.html)

## 発音について

「サカナがシャカナになる」、「カ行が言えない」、「ことばを話しているがわかりにくい」という子どもの様子を気にして相談に来られる方もあります。

そのような子どもたちをみる時に、音だけでなく、呼吸のコントロールや、舌の使い方・力、からだ全身の使い方などにも注目しています。

ことばを話すときに使うからだの部位は、ことばを話す以外、日常の行動でも使います。例えば、**食べる**ときにも使います。物を食べるという本来の目的のほかに、柔らかいものや固い物など、色々な感触の物を味わうことができ、これにより口の感覚を高める機会にもなります。また、固い物を噛むと同時に舌を使って食べ物をまとめているので、自然と舌の運動にもなるのです。

他にも様々な発音に関わる行動があります。

**飲む・吸う・吹く**→呼吸のコントロールにつながります。

(例：熱い汁物を冷ます「フーフー」とする。)

**なめる**→舌の動きを高めます。

(例：口の周りについた食べ物をなめとる。)

**うがい**→口や頬の筋肉を使います。口の奥の方の機能を高めます。

**歯磨き**→口の中の感覚を高めます。

**耳で音を聞く**→正しい音を聞くことが正しい発音には必要です。

こうしてみるとバラエティーにとんだ学校の給食や、日頃学校で行っていることも子どもの発音の力をのばすのに大切なことであり、また専門家でなくても見られる視点があるものです。

もう一つ、発音の苦手な子どもの相談で大事にしていることがあります。それは相手に内容や気持ちを伝えたいという子どもの思いです。子どもの気持ちへの共感がなく、発音の間違いを言い直しさせられたら、子どもの伝えたい気持ちはしゅんとしぼんでしまいます。

日頃学校で行っていることに、視点を変えて注目することや、気持ちに共感することで子どもの力を育てていくお手伝いができると思います。

(北谷)

